

# ISO14001 改正における企業緑地と生物多様性の関連

株式会社インターリスク総研

一般社団法人企業と生物多様性イニシアティブ  
(JBIB) 顧問

一般社団法人いきもの共生事業推進協議会  
(ABINC) 理事

原口 真

生物多様性のリスクは、まさに多様で多元的である

生物多様性は、ISO14001：2015年版の環境方針の課題のひとつとなりました。2015年版の要求事項となつた「リスク及び機会」という概念は、生物多様性の分野ではすでに国際的な認識となつています。

リスクという概念が、従来ISO14001で考えられていた「環境に与える物理的な影響度と発生頻度」という意味ではなく、経営リスクの視点でとらえています。「汚染の予防」や「気候変動の緩和及び気候変動への適応」といった課題においては、現在でも物理的リスク中心で取り組まれているので、生物多様性の分野で「リスク及び機会」の議論が先行していると言えます。

たとえば、自社が操業しているもしくはこれから進出しようとしている土地が、どのような地質学的変遷を経て形成されたか、その土地にある河川の上流の森林や農地、都市の土地利用の現状がどうなつてゐるのか、といったことを把握すれば、土地利用に関する生物多様性リスクが明らかになります。リスクが明らかになつても移転が容易でなければ、洪水を緩和するような調整池となる緑地を設けたり、想定される浸水の高さ以上に重要設備を移動したりといった適応策をとることができます。

こうしたリスクを環境マネジメントの適用範囲外だと無視することはもはや許されないでしょう。たとえ、環境法規の排出基準を順守し、有害廃棄物を

ISO14001 改正！生物多様性への取り組みが求められるーどうするか？

（これから重要な企業緑地における生物多様性）

開催日：12月14日 ●会場：横浜市環境科学研究所

オープンセミナー 開催報告

ISO14001 環境マネジメントシステムでは、2015年の改正版で生物多様性への取り組みが求められるようになりました。この社会的背景や改正点に関する講演と、京浜臨海部における当フォーラムの活動報告、それらを踏まえた総合討論を内容とするオープンセミナーを開催しました。

最初に、市環境創造局政策課から「横浜市における生物多様性の取り組み」、株式会社インターリスク総研原口氏から「ISO14001 改正における企業緑地と生物多様性の関連」の講演がありました。

続いて、トンボ調査地点であるJVCケンウッド、マツダR&Dセンター横浜本社から各社の取組み事例、東京農大 田口先生から「京浜臨海部の企業緑地等の生物多様性」の報告がありました。

総合討論では、東京都市大 横田先生をコーディネーターに、企業、研究者、市民、行政によるパネルディスカッションが行われ、自然を愛する気持ちを育むこと、データの蓄積・管理が大切なこと、土地が無ければネットワークすること、市の補助制度等、それぞれの立場から生物の生息空間として質の高い緑地づくりを目指すための考え方や方法が語られました。

また討論冒頭の、環境科学研究所からの「生物生息空間としての雨水調整池の役割について」の話題提供も興味深いものでした。



右端より横田先生、吉城氏（JVC）、田口先生、原口氏、諫訪邊氏（横浜市）、早川氏（市民）七里氏（環科研）

※このオープンセミナーは、横浜市環境創造局、特定非営利活動法人まちづくり情報センターかながわ（アリスセンター）の後援を頂きました。

適切に管理し、雨水側溝に遮断装置を設置していたとしても、大規模に浸水してしまえば、除染廃棄物の袋が流出してしまったようなことが発生しかねないからです。ISO14001 の存在意義が問わされることになるでしょう。このように生物多様性のリスクを把握し、対策をとることは、経営リスクを低減し、結果として他社競争優位をもたらすことから「機会」と考えられています。

タイプ3や4の企業は、自社

で人材などの資源を十分に投入できない状況であり、地方公共団体やNPOなどが用意したプラットフォームに参加することから始めるよいと思います。

「トンボはドコまで飛ぶかフォーラム」などが先進事例です。

自社がどのタイプに当たは

まつたとしても、工場・事業所をとりまく水、土地、天然資源、植物、動物などについて、生物多様性、生態系の観点から、およそでも把握することは重要

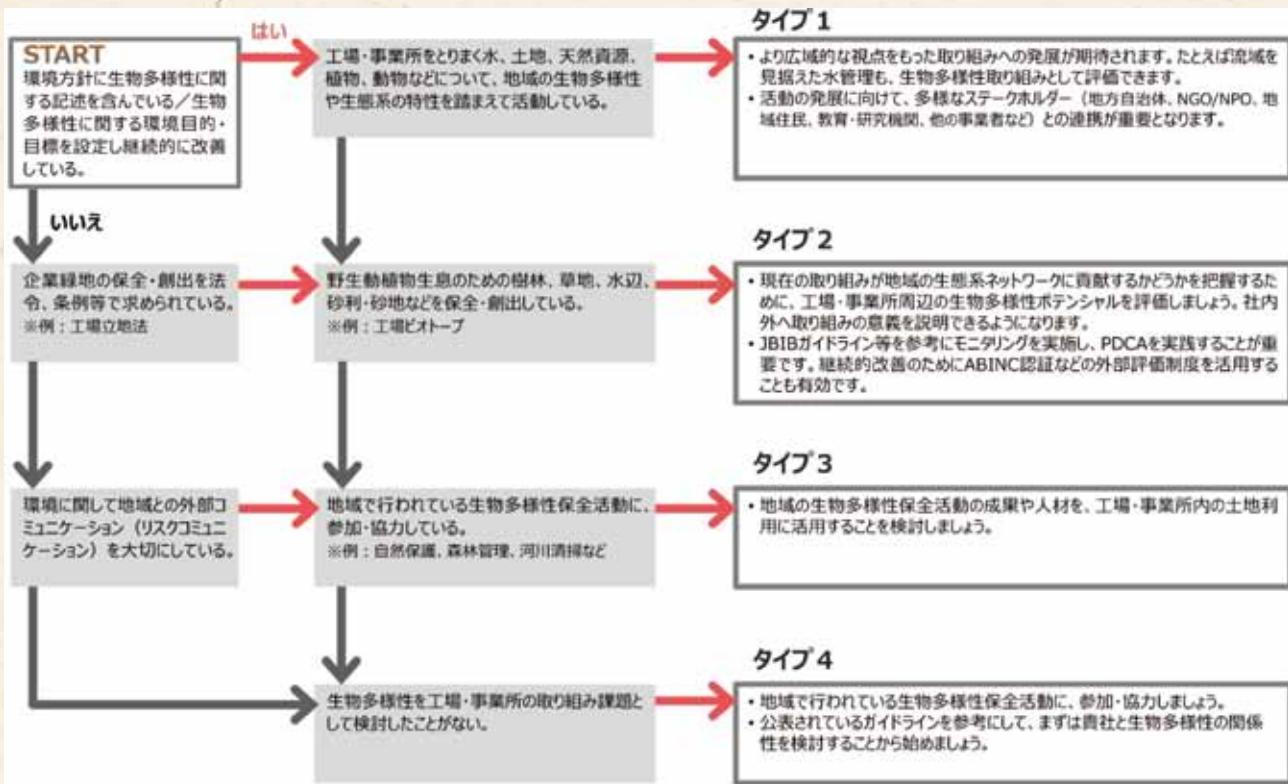
です。これは、ISO14001・2015年版の環境の定義そのものにとってよく、それを理解することによって、的外れな土地利用をしてしまうリスクを回避することができます。

## 持続可能な土地利用の第一歩を踏み出すために

持続可能な土地利用の第一歩を踏み出していただくために、工場・事業所を想定したタイプ別の取り組みのヒントを整理してみました。（図表1）



図表1 持続可能な土地利用 あなたの工場・事業所のタイプは？



作成：(株)インターリスク総研